

自民党の磯部圭太です。

私も、先ほどの大桑議員と同じく、本日が入団して最初の質問になります。

どうぞよろしくお願いいたします。

委員長、スライドの使用許可をお願いします。

## 1 廃棄物分野における国際協力（ベトナム・ダナン市への協力）

まず、廃棄物分野におけるベトナム・ダナン市への国際協力について伺います。

スライドを2枚ご覧ください。スライド1

これは、現在のダナン市の街並みです。観光地として人気があります。スライド2

そして、ビーチ周辺にはホテルやレストランが立ち並び、昨年はAPECが開催されるなど、国際都市としても発展しています。

次のスライドです。スライド3

これも、現在のダナン市です。カンソン処分場という、ごみの最終処分場です。

私も訪れたことがあるのですが、ごみをそのまま埋め立てている、典型的な新興国の処分場です。

ベトナムは2008年に、「環境都市宣言」をするなど、環境に関心が高い都市だと認識していましたので、この処分場を視察して衝撃を受けました。

現在、本市はダナン市と、廃棄物分野で国際協力を進めていると聞いています。そこで、

(1) 両市で進めている事業の概要について、政策調整部長に伺います。

【答弁】

いろいろなデータがあるので、正確には把握しておりませんが、ダナン市の人口は100万人を超えているようです。

市の一部の地域でのモデル事業とはいえ、ごみ分別の仕組みを作るのは、大変な作業だと考えます。そこで、

(2) 資源循環局が、この事業に取り組む推進体制について、政策調整部長に伺います。

【答弁】

事業としては、3年間で一定の成果を出す必要があります。今年は、その2年目とのことで、かなり具体的な段階に入っているのではないかと思います。そこで、

(3) 現在の事業の進捗状況について、政策調整部長に伺います。

【答弁】

本市は、かつて「ヨコハマG30プラン」を展開し、大幅なごみ量の削減に成功しました。

しかし、本市とは歴史や文化、生活習慣も異なる海外において、ごみ分別の仕組みを作ることは、一筋縄ではいかないと考えます。そこで、

(4) 事業を進める上での課題について、局長に伺います。

【答弁】

本市は、市民・事業者・行政が一丸となって、ごみの分別に取り組み、ごみの削減と適正な廃棄物管理の仕組みを作ってきました。ヨコハマG30プランの成果は、今でも人々の話題にのびります。

そして今、アジアの新興国における深刻なごみ問題が、世界から注目を集めています。

そのような中で、本事業が成功をおさめることは、今後の国際的な廃棄物問題の課題解決に大きく貢献することになると考えます。そこで、

(5) 課題をどう解決していくのか、局長に伺います。

【答弁】

ダナン市の最終処分場を見ると、その状況を改善するのは簡単なことではなく、長い時間がかかると思います。本事業では、これからダナン市がベトナムにおけるモデル都市となり、その知見を周囲に広げていくことが期待されていると考えます。

その一歩をぜひ成功させ、世界的なごみ問題の解決に貢献していただくことを期待し、次の質問に移ります。

## 2 ラグビーワールドカップ2019™に向けた街の美化

次に、ラグビーワールドカップに向けた街の美化について伺います。

アジアで初めての開催となるラグビーワールドカップ2019まで1年を切り、来年の今頃はラグビーの話題で大いに盛り上がっているのではないかと思います。

前回のイングランド大会において、テレビやインターネットの視聴者数が10億人を超えたという報道もあり、世界の注目を浴びる大会ですので、この大会の観戦を目的に、海外から多くの方々が、この横浜を訪れることと思います。また、この大会の1か月前には

アフリカ開発会議の横浜開催も決まっております、観光・MICEの点からみても、大切な時期を迎えることとなります。

「ヨコハマの街はきれいな街だ」と世界にアピールする絶好の機会だと考えます。

資源循環局においても、大会開催に向けて街の美化の視点から様々な取組が進められ、新横浜駅の駅前広場にある公衆トイレも大幅にリニューアルされたと聞いています。そこで、

(1) ラグビーワールドカップ開催に向けたこれまでの取組について、局長に伺います。

【答弁】

6月にロシアで開催されたサッカーワールドカップでは、日本人サポーターが試合後の観客席のごみ拾いをしている姿が話題となりました。日本に対するイメージが上がった一例かと思いますが、国によって文化やルールに違いがあり、驚きや戸惑いにつながることもあります。日本に初めて来られた方が戸惑うことなく、楽しく観戦・観光をしていただくためにも、しっかりとした説明や案内をしていくことが、大切であると考えています。

資源循環局の取組の中では、路上喫煙対策も、このしっかりとした説明や案内が必要なものの一つかと思いますが、

(2) 新横浜駅周辺における大会期間中の路上喫煙対策について、局長に伺います。

【答弁】

ラグビーワールドカップ開催の翌年には、東京オリンピックの競技が横浜でも開催されます。オリンピック開催も見据えて、競技会場はもちろんのこと、市内の観光地も大いに賑わうことが予想されます。横浜の街のイメージアップのためにも、「おもてなし」の気持ちを表す、これまで以上の取組が求められると考えます。そこで、

(3) オリンピック開催に向けた街の美化の進め方について、局長に伺います。

【答弁】

オリンピック、サッカーワールドカップ、ラグビーワールドカップは、世界三大スポーツイベントと呼ばれています。2002年にサッカーワールドカップ決勝戦会場となった横浜国際競技場は、今回、ラグビーワールドカップの決勝戦の会場となり、2020年のオリンピックの競技会場ともなります。

「ヨコハマ」の名が世界に発信されるこれらの大会開催に向けて、一層の街の美化を進め、横浜のイメージアップに寄与していただくよう要望し、次の質問に移ります。

### 3 災害被災地への支援活動と今後の災害廃棄物処理

次に、災害被災地への支援活動と今後の災害廃棄物処理について伺います。

近年、国内各地で大規模な自然災害が多く発生しています。

地震では、今年6月に発生した大阪地震、8月に発生した北海道胆振東部地震が記憶に新しいですが、少し前では、28年4月の熊本地震があります。水害でも、27年9月の関東・東北豪雨や西日本を中心とした30年7月豪雨など、毎年のように大きな災害が発生し、都市災害への備えや迅速な初動対応の重要性などが求められる状況にあります。

いつ起こるかかわからない災害に対して、私たちができることは、平時からの対策により少しでも減災につなげることや、発災直後に的確に行動すること、そして、円滑な復旧・復興のための行動をあらかじめ知って備えておくことが必要です。

資源循環局の職員は、7月の西日本で発生した豪雨の被災地において、様々な災害廃棄物の処理に対する支援活動に従事されました。そこで、

#### (1) 被災地での支援活動の状況について、家庭系対策部長に伺います。

【答弁】

大変な状況の中、私も現地を視察させていただきました。

視察の調整をして下さり、ありがとうございました。

視察先、特に倉敷市真備町は、町全体が水没し、壊滅状態になってしまった、大変痛ましい現場でした。そのような中、真夏の猛暑の現場で、汗だくになりながらも、職員の皆さんが懸命に活動している姿を見て、私は大変嬉しく思いました。

何よりも、先に現場に着いたのですが、横浜の車両が続々と集結してくる光景は、感動と興奮を覚えました。

被災地ですから、いろいろな制約もある中での活動だったと思いますが、

#### (2) 活動に当たって困難だった点は何か、家庭系対策部長に伺います。

【答弁】

地元とは異なり、道もわからず、さらに被災時の環境下で活動する訳ですから、ご苦労も多かったと思います。

資源循環局では、過去にも大災害の度に被災地派遣を行ってきていると記憶しています。

これまでの派遣を通じて様々なノウハウを積み重ねてきたと考えますが、それが今回の活動の中でも随所に活かされていたのではないかと思います。そこで、

#### (3) これまでの支援の経験を今回の派遣活動にどう活かしたのか、局長に伺います。

【答弁】

作業のスピードや効率性はもとより、親切さや丁寧さなど、被災者に寄り添う姿勢は大切です。これができてこそ、本来の被災地支援につながるのではないかと私は考えます。

派遣隊の業務は廃棄物の収集運搬ですが、搬入先や排出の仕方など、それに関わる様々な業務も併せて進められなければ、廃棄物処理全体としてうまく機能していきません。地元横浜が被災した際に、これまでの被災地での支援活動を通じて得られた様々な教訓が活かされていて欲しいと思います。そこで、

(4) 今後の災害廃棄物処理にどのように活かしていくのか、副市長に伺います。

【答弁】

防災は、自助、共助、公助の考え方がとても大切です。

先日公表された災害廃棄物処理計画を踏まえ、実際に運用するマニュアルにしっかりと組み込んでいただきたいと要望し、質問を終わります。